

●鐵及鋼に關する特許 特許公報 本年五月以降

特許せられたるものの中に就き鐵及鋼に關係あるものを摘錄すれば左の如し。

第二九四四三號

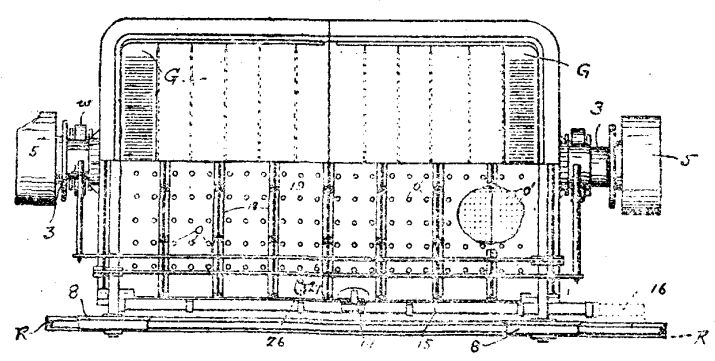
大正二年三月二十七日出願
大正五年五月六日特許
特許者 米國 グリーナワルト

冶金用爐ノ改良

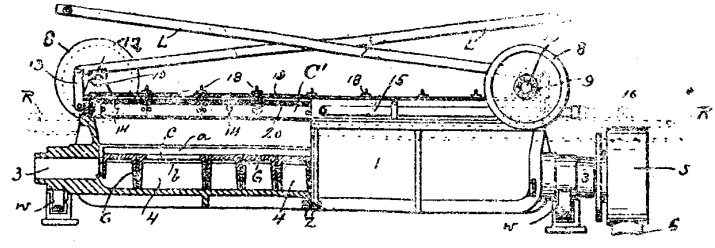
發明ノ性質及目的ノ要領 本發明ハ燒結鍋ノ連續ヲ具ヘ各鍋ハ自由ニ下傾シ得クシテ燒結作用カ完成スル時ニ鍋ヲシテ筒耳上ニ回轉シ得可カラシメ以テ鑛石ノ裝置ヲ放出シ且裝置ノ上面ニ着火ス可キ着火帶ヲ有シ之レヲ臨機燒結鍋上ニ整調シ固封室ヲ形成シ之レヨリ起ル燃燒ハ下向通風ニ依リ裝置中ニ進行シ裝置中ノ硫黃、炭素若クハ他ノ不純物タル可燃質ニテ燃燒ヲ持續セシムル裝置ニ關シ其目的トスル所ハ主トシテ微細ナル鐵鑛石ヲ熔鑛爐ニ使用シ得可キ樣經濟的ニ燒結シ得可キ下向通風ノ冶金用爐特ニ鑛石ヲ焙燒スル爐ヲ與ヘントスルニアリ

特許請求ノ範圍 一、本文ニ詳記シ別紙圖面ニ示ス如ク燃燒瓦斯ノ通路ヲ與ヲ可キ性質ヲ具フル裝置支持部ヲ有スル容器裝置ヲ通シ下向通風ヲ與フ可キ排氣機容器中ノ裝置面積ト相等シクシテ全ク包蓋セル燃燒室ヲ形成シ且ツ裝置ノ上ニ臨機整調シ得可キ着火帶、帶ノ内部ニ燃料ヲ入レ且燃燒ヲ持續ス可キ空氣ヲ入レ而シテ裝置ノ全面ニ同時ニ發火ヲ與ヘ且帶ヲ除去シタル後全裝置ヲ通シ燃燒ヲ一様ニ進行セシムル手段トノ結合裝置 二、請求範圍第一項ニ記載セル裝置ニ於テ爐格ノ直上ニ可燃物ヲ含マサル粗鑛石ノ層ヲ置キ此上ニ可燃物ヲ混シタル精鑛石ヲ置キテ燒結鍋中ノ爐格上ニ裝置ヲ造ルコトヲ得ル裝置 三、請求範圍第一項ニ記載セル裝置ニ於テ裝置面ニ平行シ水平ニ液體燃料ヲ吹霧スルタメ着火帶ノ端ニ於テ水平ニ向ク吹

圖一第 燒結鍋及重置ノ着火帶ノ半部ノ平面圖



圖二第 鍋及帶ノ側面及半部中直斷面圖



霧嘴管及着火帶ノ整調時ニ於テ裝置ノ表面ノ上ニ一様ニ空氣ヲ入ル可キ帶ノ頂部ノ孔ヲ設ケタル裝置 四、請求範圍第一項及第三項ニ記載セル裝置ニ於テ最初ノ發火中裝置面ノ上ニ火焰ヲ抑ヘ付クルタメ着火帶ヲ甚々淺ク構成スルコトヲ得ル裝置 五、請求範圍第一項ニ記載セル裝置ニ於テ外部ノ有孔板及中部ノ有孔裏板ヲ有スル着火帶ノ屋根ヲ有スル裝置 六、請求

範圍第一項ニ記載セル裝置ニ於テ支持車輪軸、車輪軸ニ支點ヲ有スル挺及帶ヲ上下スルタメ挺ト帶トノ間ノ連錘連結トノ組合 七、請求範圍第三項ニ記載セル裝置ニ於テ反對ノ方向ニ帶ノ上ニ延長セル挺ノ支持部ヲ具ヘ短腕ハ帶ノ隣接端ニ連着セラレ挺ハ帶ノ平衡部ノ用ヲ爲ス裝置 八、請求範圍第一項ニ記載セル裝置ニ於テ排出匣上ニ爐格ヲ有スル燒結鍋及排出口ト通スル鍋ノ各端ニ於ケル中空筒耳トノ組合 九、請求範圍第一項ニ記載セル裝置ニ於テ爐格端ノ端ニ容ル可ク離置セラレタル上下ノ部分ヲ有スル燒結鍋

- (27) 可搖板
- (26) 火把孔
- (20) 鑄鐵裏板
- (19) 外板
- (18) 橫丁字鉗
- (16) 可撈管
- (15) 管
- (14) 嘴
- (13) 連接鉗
- (8) 車輪
- (6) 管
- (5) 匣
- (3) 中空筒耳
- (1) 燒結鍋
- (R) 軌條
- (O) 孔
- (L) 衡挺
- (G) 爐格
- (O) 發火室

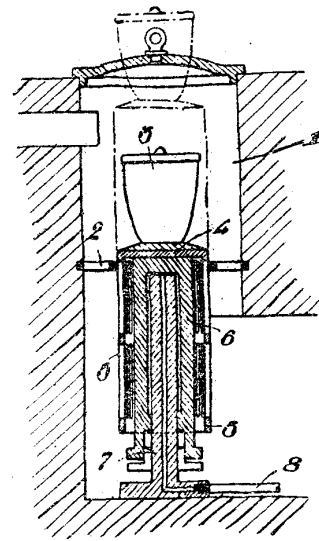
第二九五三三號

大正五年二月二十五日出願
大正五年五月三十一日特許
特許權者 東京府 野保寛治

換裝坩堝爐

發明ノ性質及ヒ目的ノ要領 本發明ハ坩堝臺ノ下部ニ連接シテ筒狀部ヲ設ケ水壓其他適宜ノ機構ニ依リ坩堝ヲ爐内ニ於テ昇降自在ニ支ヘタル換裝坩堝爐ニ係リ其目的トスル所ハ坩堝扛上ノ際筒狀部ノ存在ニ依リテ坩堝ニ相當ナル容積ヲ爐内ニ保持セシメ爐周ニ於ケル燃料ノ崩壞ヲ防キテ燃燒ヲ持續シ次回坩堝ヲ其儘燃料中ニ下降スルニ適セシメ以テ坩堝ヲ赤熱ノ燃料中ヨ

本圖ハ坩堝ノ斷面側ヲ示ス



- (1) 坩堝爐
- (2) 爐格
- (3) 坩堝
- (4) 坩堝臺
- (5) 格子狀筒
- (6) 水壓筒
- (7) ラム
- (8) 水管

リ取出ス危險ト困難トヲ除去スルト同時ニ其換裝ヲ簡易迅速ナラシムルニ在リ

特許請求ノ範圍 前文記載ノ目的ヲ以テ本書ニ詳記セル如ク坩堝爐内ニ環狀爐格ヲ定設シ其中心ニ於テ昇降自在ノ坩堝臺ヲ設ケ水壓裝置其他適宜ノ機構ニ依リテ下方ヨリ坩堝ヲ扛上シ得ヘカラシメ而シテ坩堝臺ノ下面ニ之レト等徑ナル格子狀其他適宜ノ筒狀部ヲ定着シ坩堝上昇ノ際之レニ相當ナル空積ヲ爐内ニ保持セシムヘク構成セル換裝坩堝爐

第二九五三四號

大正五年三月十八日出願
大正五年五月三十一日特許
特許權者 東京府 野保寛治

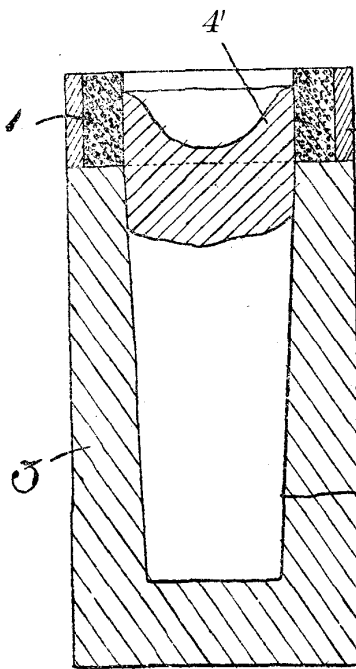
鑄物ノ押シ湯ヲ節約シ「パイピング」ヲ

除去スル方法

發明ノ性質及ヒ目的ノ要領 本發明ハ鑄造物ノ最上部即押シ湯ノ部分ヲ高熱ニ於テ形體ヲ保チツ、燃燒スル物質ヲ以テ圍繞セシメ鑄造ノ際其物質ノ燃

燒ニ依リテ押シ湯ノ周面ヲ熱シ以テ其流動性ヲ持續セシムル方法ニ係リ其目的トスル所ハ永ク流動狀態ニアル押シ湯ヲシテ其冷却スルニ當リ通常鑄物ニ見ル如キ深キ裂狀ノ窠所謂「パイピング」ヲ殘スコトナク最モ淺キ凹形ニ凝固セシムルト同時ニ押シ湯ノ分量ヲ極度ニ節約セシメ且「パイピング」ノ爲從來無益ニ廢棄セラレタル鑄物ノ一部ヲモ完全ナル製品トナラシムルニ在リ

特許請求ノ範圍 一、前文記載ノ目的ヲ以テ本書ニ詳記セル如ク高熱ニ於テ一定ノ形體ヲ保チツ、徐々ニ燃燒スヘキ物質ヲ以テ鑄造物ノ最上部即押シ湯ノ部分ヲ直接ニ圍繞セシメ鑄造ノ際熔融金屬ノ熱度ニ依リ燃燒シテ周面ヨリ押シ湯ヲ熱シ以テ其流動性ヲ永ク持續セシムルコトヲ特色トスル鑄物ノ押シ湯ヲ節約シ「パイピング」ヲ除去スル方法 二、前文記載ノ目的ヲ以本圖ハ本方法ヲ行スル施一例ヲ示ス鑄型ノ縱斷面圖



- (1) 物質
- (2) 型枠
- (3) 鑄型
- (4) 熔融金屬

テ本書ニ詳記シ且別紙圖面ニ明示セル如ク木炭、石炭、「コークス」若クハ鋸屑等ノ粉末燃料ト油「コールドター」「ピッチ」等ノ流動燃料ト粘土、砂等ノ支持料トヲ練合シテ型ヲ塑造シ之レヲ普通鑄型ニ接續シテ其最上部ニ据置シ以テ押シ湯ノ周面ヲ可燃物質ニ依リ直接ニ圍繞セシムル鑄物ノ押シ湯ヲ節約シ「パイピング」ヲ除去スル方法

支那鐵鑛現況

鐵材の供給如何は軍事並に工業の

發展上各國共に必要の問題なるが、之を支那鐵鑛の現況に徴するに其豊富なる鐵鑛中今日迄發見せられ確實と認めら